

アウトレット木更津は予想以上に好況で今後に大きな期待と話題を呼んでおります。年内の観光バスの予約だけでも3万台を超えると伝えられております。

一方アクアライン、アウトレット効果は幹線道路を大渋滞させるけれど、観光客は4市を回遊せず、ほとんどが通過していく。回遊する車も人も利便が良くなったので、日帰り客は6割から7割となって、宿泊客が減ってきたと嘆く声も多く聞かれます。

大型量販店、コンビニらのチェーン店に追い込まれる地場小売店の生き残る、唯一の市場として期待される観光客をどう回遊させ対応していくかが急がれる課題であります。

私が地場の小売業の生き残りに強い危機感を持つのは、会議所の会員1,800社の中小小売業、サービス業、飲食業、そして観光に係る地場産業は凡そ1,300社であり、工業関係は520社であります。君津市内で働く人、凡そ4万5千人の70%、凡そ3万人の人が働き、生計を立てる大切な職場だからであります。

先日、常議員会の席上でアウトレットに出店しているK氏に発言を求めました所「アウトレット内の観光案内所で、観光マップを6枚も7枚も渡され、行く先に戸惑っております。よい方法を考えて上げて下さい」と言われました。この4市を通過するお客さんにこの地域の良さを伝え、立ち止まらせるマップがかえって客に負担を与えているとの事は、思わぬ大きなヒントだと私は思いました。

それから数日後、木更津商工会議所の肝入りで4市の商工会長、会議所会頭（袖ヶ浦、富来田、木更津、君津、富津（欠））の懇談会が開かれました。

私から「通過する観光客を回遊させるために、4市がサッカーの「なでしこ」のようにそれぞれの個性、特性を生かして、4市がチームワークを組んでバラバラだったマップを1枚の物にし、「4市の名所や旧跡、うまいもの、名産品がこんな近隣に凝縮されているんだ」と、マップを広げれば4市が一目瞭然でわかる親切な観光インフラ地図を作りたい。」と提案しましたら皆さんが妙案だと大賛成をして下さいました。次のマップを作る機会には、是非観光に係る方達の共鳴を頂き、実現させてもらいたいと願っております。

すでに東北三大祭りは「青森ねぶた祭り、秋田竿灯まつり、山形花笠おどり」があり、今では東北6魂祭りへと広がり、福島相馬野馬追、岩手盛岡さんさ踊り、福島わらじまつり、宮城仙台七夕まつりと7月末から8月上旬は観光客を東北の地へと釘付けにしております。ねぶた祭りには今年は3百万人を超えたと報道されています。私も昨年、今年と3年続けて参加してきました。

こうした広域循環型観光への考え方は、九州「ちくご広域連携観光」（福岡筑後7国）を始めとして動き出した気配があります。館山、木更津商工会議所と3会頭懇談会が館山市で近く開かれるので、南房総広域循環型観光を話し合ってみたいと思っています。広域観光ルートを提案して、この頃多くなった家族旅行～観る・遊ぶ・食べる・体験する～そして滞留し、移住する観光を房総の地に育てたいものです。

実現は皆さんのやる気、情熱です！

亀山の「たまらん」に君津市長さんはじめ大勢の方がお越し頂いている様です。ありがとうございます。頑張っておられる青年達に引き続きエールを送って頂きたいと思っております。